



## 茨城県議会第1回定例会 一般質問

# 県政の見える化へ向け うののぶこスタート!

### 県政の見える化 審議会等の公開制度を求めました!

**うの** 茨城県には各種計画や政策を検討する審議会等の公開を定めた条例や指針がなく、各審議会等で個別に判断している。会議の公開制度を他県のように定めてはどうか?

**知事** 私は報道機関への積極的な情報提供など、透明性の確保に努めてきた。会議の公開指針を持っている他県でも例外規定がある。改めて公開に係る基準を明文化する必要はない。

**うののつぶやき** 知事が記者発表を頻繁に行うことと広く県民や有識者、関係者を集めて話し合う審議会等の透明性を高めることは別問題。ほとんどの都道府県は公開制度を持ち、公開に努めている。知事の答弁に、これが今の茨城県の現状なのかと大きなショックを受けた。身近な茨城県政への道のりは遠い。

### 公立高校不足への対策 つくばサイエンス高校の出願者が 少なかった原因は?

**うの** つくば市では県立高校の新設や通学の利便性改善の要望が多い。つくば工科高校をつくばサイエンス高校に再編し、定員を80名増やし240名にしたが、出願者は72名と昨年の133名より減ってしまった。今後の対応は?

**教育長** つくばサイエンス高校は研究者や高度技術者をめざす実践的な教育を行うことをねらっている。出願者が少なかったのは進学実績が見えないことや「理系の大学進学を目指す」とかかげたことでハードルが高いと受け止められた影響が考えられる。中学校への聞き取りや入試結果を分析し、志願者確保に努めていく。

**うの** つくばだから理系進学という大人の都合ではなく、子ども達が何を望んでいるのか、現場の声をしっかり聞いて欲しい。教育は将来への投資。県立高校の新設も含めあらゆる可能性の検討を求める。

### 増加する不登校児童生徒への対応は?

**教育長** すべての公立小中高校にスクールカウンセラー、SNSによる相談窓口、24時間対応の「子どもホットライン」、教育支援センター51か所設置のほか、民間フリースクールへの運営費を補助。また校内フリースクール研究事業をつくば市の中学校1校で開始し、新年度はつくば市において全中学校に導入される。

**うの** 抜本的な対策として一人ひとりに向き合う少人数学級に取り組む考えは?

**教育長** 過度な少人数学級は人間関係に疎いたときに新しい関係を築きにくく、子供同士が切磋琢磨する機会の喪失につながる。県としては、不登校児童生徒一人一人の状況に応じた支援や、多様な学びの場を確保していく。

### 洞峰公園パークPFI導入の 政策決定過程は?

**うの** 洞峰公園のパークPFI事業者選定委員会で「地域住民の意見を聞くことが重要」と委員から指摘されたのに、公聴会を行わなかったのはなぜ? サウンディング調査になかったグランピングの案はいつ誰から出たのか?

**土木部長** 毎年実施している公園利用者へのアンケート調査で利用者の意向や課題を把握し、つくば市とも協議しながら進めてきた。2021年に公募した結果、現在の事業者からグランピング施設を核とする事業提案がなされた。

**うの** 毎年の利用者アンケートとパークPFI事業提案への住民意見の反映は全く別。選定委員会でつくば市の担当者がグランピングやバーベキューについて市長の懸念を伝えていた。市長や選定委員の意見を無視したことは非常に問題。今後は地域住民や専門家の意見を踏まえるべき。



県からつくば市へ無償譲渡予定の洞峰公園

この他、

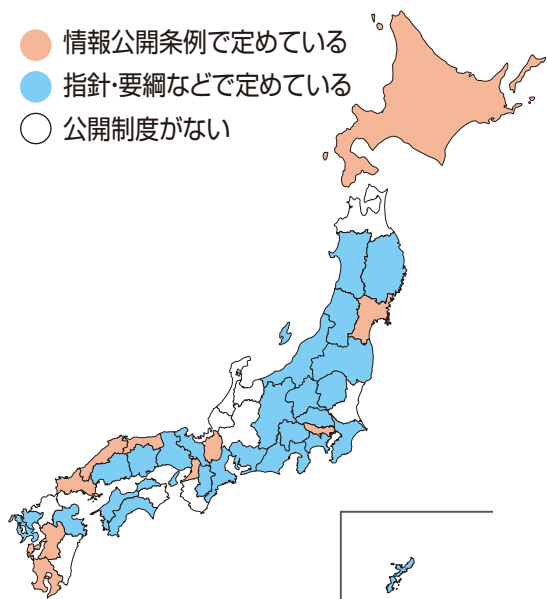
- ・原子力災害時の避難ルートとなる橋梁の耐震化
- ・高レベル放射性廃棄物のリスクと対策、最終処分問題
- ・児童発達支援事業・放課後等デイサービスの適正な運営
- ・有機農業の現状と課題、今後の推進施策について一般質問しました。

一般質問録画が  
県議会HPで見られます



### 都道府県別会議の公開制度状況

- 情報公開条例で定めている
- 指針・要綱などで定めている
- 公開制度がない





うののぶこは防災環境産業委員会、予算特別委員会の委員になりました。委員会質問のトピックスお届けします！

## 信号機撤去の理由は？

つくば市では新しい住宅地や新設道路に信号機が新設される一方、信号機を撤去する動きもあります。

「元々交通事故が起きて押しボタン式信号を設置したのに、撤去されたら自転車通学の中学生が朝夕渡るのに危険。警察署に問い合わせたら、他のところに信号を新設するので使用頻度が低いところは撤去すると説明された」と市民の声が届きました。



撤去の理由が市内の他の場所に設置するからというのでは住民同士の分断をも誘発しかねず、予算特別委員会で信号機撤去の基準や進め方を質問しました。

警察本部長は「信号機の撤去は、全国統一の信号機設置の指針にある条件のいずれかを欠くことになった時に検討する。毎年7月に信号機の運用実態を現場確認し、撤去の状況を満たす場合には地域の皆様にご説明し、撤去後に交通事故が発生増加しないよう代替措置を講じた上で、地元住民の理解を得て撤去を行う。個別に必要性を判断するので、地域の上限を設定したり、信号を新設したから同じ地域の他の信号を撤去するということはない。説明によって住民の皆様の誤解や不安を覚えることは決してあってはならず、申し訳ない」と答弁。

そこで、今後は誤解が生じないように、信号機の新設や撤去の基準を県警のホームページで周知するよう要望しました。



信号機設置の指針

## 犬猫殺処分ゼロ! を続けるために



茨城県はかつて、犬猫殺処分頭数が全国ワースト1でしたが、殺処分ゼロを目指す条例を制定し、動物愛護団体の協力で近年はゼロを達成しています。

しかし、笠間市にある県動物指導センターでは、今年年間2000頭程度の収容があり、収容限界を超える時は動物愛護団体へ引き取りを依頼しています。ただ、1頭5000円の補助だけでは団体の負担が大きいため、支援拡充を提案しました。

これに対し知事は「動物保護活動は、動物を愛しむ感動や喜びにより精神的な報酬を得る自発的なボランティア活動」であり、「財政的な支援は県の方針に理解のある団体の自発的な取り組みに対するもので拡充は考えていない」と答弁。

そこで、県内各地に啓発の核となる動物愛護センター設置を提案しました。これに対し、知事は「センターをたくさん作るのではなく、

飼い主が分かるように飼い主の方々にICチップの埋め込みを推奨している。例外的な多頭飼育の崩壊が起きた時だけ(センターが)逼迫した状況になるので、殺処分を行わないようしっかりと対策を講じることは検討していきたい」と答弁。

2021年度、動物指導センターへ持ち込まれた犬猫頭数はつくば市がワースト6位の49頭。他市では行政と市民が協議会を作り保護活動に取り組んでいる所もあり、つくば市でも話し合っていきたいと思います。

この他、

- ・障害者差別解消支援地域協議会の会議録がみられません!
- ・原子力災害時の広域避難計画は現実的か? について質問しました。

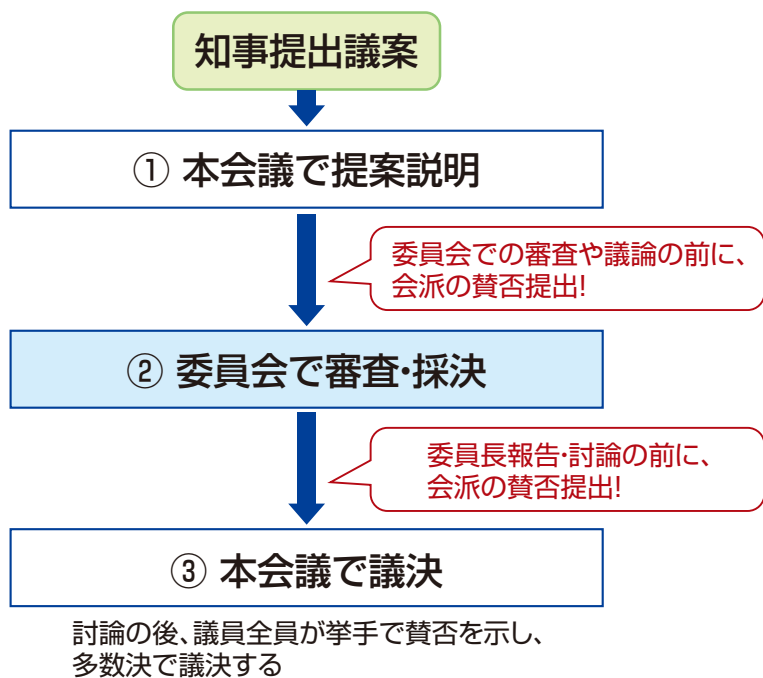


動物指導センター



予算特別委員会動画

### 審議・議決の流れ



### 審議・討論の前に賛否を提出って!?

議会ではたくさんの議案について議決します。つくば市議会では

- ① 本会議で議案の提案説明があり
- ② 各テーマ別の常任委員会で審査(質疑・採決)があり
- ③ 最終的な議決を本会議で、各委員会の審査報告や討論を聞いて判断するという順番でした。

しかし!!

茨城県議会では「委員会も本会議も、事前に会派ごとに議案の賛否を紙に書いて出す」よう求められ、目が点に…。

その理由を尋ねると、「全員賛成のものと、賛否が分かれるものに分け、まとめて採決する。進行台本作成のため、事前に賛否が必要」とのこと。

うののぶこが所属する防災環境産業委員会では「他の委員の質疑や意見もしっかり聞いてから判断したい」と提出を断った結果、1議案ずつ採決になりました。予算特別委員会と最終日の本会議の賛否は、79議案もあるため、今回は茨城方式に従い事前に提出しました。しかし、本来なら討論を聞いて判断すべきと考えます。本当にこのままで良いのか、引き続き取り組んでいきます。

